

アメリカ援助によるイエメンの計画的ジェノサイド

【訳者注】イエメン侵略によってアメリカの「汚い仕事」がいよいよ明らかになった。ワシントンは今、理性的な話の通ずる状態でないこともはっきりした。彼らの言動を追っていれば、彼らの根底にあるのは、**Exceptionalism**（自分たちは例外、この惑星は本来自分たちのものだという信念）であり、それがおそらく終末意識、あとがないという意識と一つになっていると思われる。これは“キチガイに刃物”状態を生み出す。

沖縄基地問題も、彼らの思い通りにならない場合、かなり危険だと覚悟しなければならない。P. C. Roberts の言うように、彼らは我々を“パートナー”として扱うつもりはないから、何らかの露骨な脅しをかけてくる可能性があり、彼らの常套手段である **False Flag** 作戦（例えばニセ中国機の襲来）を使うかもしれない。とにかく、ワシントンに平和を求める意志のないことは明らかである。

By Stephen Lendman

Global Research, April 9, 2015



ワシントンはイエメンに対する戦争を、何か月も前から計画していた。これはサウジの率いる傭兵がオバマの汚い仕事を実行するという、どんな基準から見ても言い訳できない先制侵略だ。

しかもアメリカが直接かかわっている。報道によれば、一隻かそれ以上の米軍艦がイエメンの目標を砲撃した。イスラエル軍機もかかわっている。

何百万というイエメン人民が、オバマのテロ戦争——住宅地、病院、学校、発電所、イエメン最大の食糧貯蔵センターと最大の牛乳工場といった、非軍事施設を故意に狙う攻撃——

の恐怖を経験しつつある。

非戦闘員の男、女、子供たちが、冷酷に殺され、傷害を負わされている。死体が道路に山積みされている。

イエメンのテロ爆撃に生き残った人々は、足の下で大地が震動したと報告している。

無事にロシアへ飛行機で運ばれた、あるウズベク市民はこう言った――

「私たちは、ここ 8 日間、眠ることができませんでした。」

「私たちは、疎開の手配をしてくれたロシアとプーチン [大統領] に感謝しています。ロシアが [助けの手を差し伸べてくれた] 唯一の国でした。他にはどの国も、そうしてくれませんでした。」

あるフランス人の疎開者は、毎夜のテロ爆撃は、耐えられないものだったと言った。飛行機で救出されたあるロシア人は、彼女の子供たちが死ぬかもしれないと言った。

「都市 (Sanaa) 全体があらゆる方向に揺れました。これでは、ここにいられないと思いました」と彼女は言った。

4月7日、ペンタゴンの支配する新聞 Stars and Stripes は、ワシントンは「サウジの率いるイエメンの合同軍に、兵器を急派している。米政府筋によれば、この合同軍は、イエメンのイランに支援された反乱軍と戦っている」と述べた。

<http://www.stripes.com/news/us/us-speeding-up-arms-shipments-for-yemen-fight-1.338874>

リヤドを訪問中の米国務次官補 **Anthony Blinken** は、「我々は兵器を急送したところ」であり、「情報の共有を強化し、サウジの作戦センターに、合同の統合計画室を設けたところだ」と言った。

ホワイトハウスの報道官 **Josh Eamest** は、「米軍は、サウジアラビアと、この地域の彼らのパートナーの努力を支持して、彼らが当然、不安を感じている国境の安全保障のために働くだろう」と言った。

ペンタゴンの報道官 **Steve Warren** 大佐は、輸送品目は「我々のパートナー国家がすでに注

文しているものと、彼らが弾薬を消費するに応じて生ずる新しい必需品だ」と言った。彼は何が輸送されているか詳細は明かさなかった。ただ、「我々は我々のパートナーと緊密に連携し、必要なものを与えている」とだけ言った。

ワシントンが与えているのは、情報、空中給油、輸送の便宜、それにテロ爆撃の標的——市民が殺される住宅や、他の非軍事地域——の情報である。

水曜日、サウジの空軍機が、イエメン中央の学校をテロ爆撃したときには、少なくとも6人の子供が死に、他に負傷者が出た。

ユニセフの **Julien Harneis** は、「子供たちが殺され、怪我をし、家から追い出され、健康が悪化し、教育が中断されている」と語った。

国境なき医師団は、多くの怪我人が治療の手段のない状態だと語った。赤十字国際委員会 (ICRC) は、必要な医薬品を手に入れるのが非常に困難だと訴えた。

ある代弁者は、彼らがすぐにもイエメンに到着しなければ、死亡者は増えるだろうと言った。

10万人以上のイエメン人が家を失くし、毎日そういう人たちが増えている——命からがら逃げるが、どこも行き場のない状態だ。

ICRC のある代弁者は、イエメン南部の港湾都市アーデンの現状は「破局的」だと評した。

もう一度繰り返そう——オバマのイエメンへの戦争は、どんな基準に照らしても、言い訳できない侵略だ。

国際法の専門家 **Francis Boyle** 博士は、これを「むき出しの、あからさまな、残忍な侵略の例」(a case of raw, naked, brutal aggression) だと言っている。

「これはアメリカが、その代理国で傀儡である、サウジアラビアと「湾岸協力会議」(GCC) を使って、その戦略的位置として重要なイエメンに対する支配を、再主張しているという構図だ」と彼は説明した。

「合法的なイエメンへの軍事介入の方法があるとすれば、それは国連安保理が割って入ることだが、今のところそれは起っていない。」

国連憲章第2条、パラグラフ3はこう規定している――

「すべての構成国は、その国際的な異議を、平和的手段によって解決すべきであり、国際的な平和や安全保障や正義が、危険にさらされることがあってはならない。」

パラグラフ4によれば――

「すべての構成国は、その国際関係において、いかなる国家の領土的真正さや政治的独立に対して、脅迫や武力を用いることも、また国際連合の目的に矛盾するいかなる方法を用いることも、慎まなければならない。」

パラグラフ7はこう言っている――

「現在の憲章に含まれるいかなる規定も、国家の国内法体制内部に本質的に属する問題について、国連が介入することを権威づけたり、また構成国がそのような問題の解決のために、現在の憲章のもとに、これを提出することを要求するものではない…。」

第57条は、安保理の承認なしに軍事力を行使することを禁じている。そうした承認はなかったし、将来もないだろう。ロシアとおそらく中国がそれを許さないだろう。

現在、人類に対する身の毛もよだつ戦争犯罪行為が進行中である。破局的な状態が日ごとに悪化している。

火曜日には、防衛長官 **Ashton Carter** が、イエメンのアルカーイダの活動は拡大しつつあると言って、アメリカがますます大きく巻き込まれる可能性を示唆した。

アメリカはより大きな権力を求めている、と彼は言った。アルカーイダはアメリカの作ったものである。それは異なった紛争地域で、同盟者としても、敵としても使われている。カーターは説明しなかった。

彼は滑稽にも、「彼らの野心は西側世界とアメリカを打倒することだ」と警告した。

ワシントンは、自分が始めたイエメン紛争に、もっと直接的に巻き込まれていくだろうか？ それは、しばらく見ていなければならない。

確実なことが一つある。また一つ、アメリカの狙った国家が荒らされ、破壊されているとい

うことだ。

何百万という人の命が危険にさらされている。戦闘が終わるまでに、何十万の人々が死ぬかもしれない。何年も継続する可能性がある。

最後のコメント：

ロシアは、イエメンの紛争を外交的に解決せよと言っている。セルゲイ・ラヴロフ外相は、この戦争にはいかなる「国際的な法的根拠」もないと言った——

「我々はもちろん…この戦闘行為が、いかなる国連安保理への相談もなく、相互の話し合いもなしに始まったこと、また我々のパートナーが…事後に安保理に出頭して、彼らの行動の承認を求めたことを残念に思っている…

「そういう承認はできない。それは紛争の一方の側だけを認めて、他方を悪者にせよという要求だからだ。

「我々の立場は違っている。現在のところ我々は、サウジやエジプトの同僚（外相）、またこの戦争行為に参加している他の国々とも、積極的に交渉し、平和的解決を呼びかけている。

「そのためには、交戦国がともに、あるステップを踏まなければならない——フーシ派は、新しい領土を獲得しようという試みのある、南イエメンでの戦闘活動を中止しなければならない。

「停戦は無条件でなければならない。合同軍は空爆をやめなければならない。

「地上でフーシ派と対決している軍隊もまた停戦に加わらねばならない。

「すべての側が交渉のテーブルにつかねばならない。これは我々にできないことではない。

「この地域の国々の首都が、会談のホスト役になってもらえるか、現在、話し合っている。

「この会談は、イエメンの当事者すべてに受け入れられるもの、対話と平和的行動に戻

ることを認めるものでなければならない。

「この国は、国家的統一と新しい選挙を必要としている。我々そういうことすべてをウクライナで見ている。」

ただオバマは、イエメンにこの傭兵戦争を仕掛けたとき、やめるつもりはなかった——この元々自分の寄生国家だったものを、ワシントンが再び手に入れるまでは。

(スティーヴン・レンドマンは、シカゴ在住。連絡先：lendmanstephen@sbcglobal.net 彼が編集し寄稿もしている新しい本のタイトルは、“*Flashpoint in Ukraine: US Drive for Hegemony Risks WWII*” <http://www.claritypress.com/LendmanIII.html> 彼のブログサイト sjlendman.blogspot.com を訪ねて、すぐれたゲスト論客との鋭い論戦を、*Progressive Radio Network* の *Progressive Radio News Hour* で聴くことができる。)